

創業からの軌跡

変わりゆく時代の中で — 革新の技術・製品が進化を導く

1915-

化学メーカーとしての基礎づくり

私たち住友化学は、1913年、銅の精錬に伴い発生する排出ガスから肥料を製造し、環境問題克服と農産物増産をともに図ることから誕生しました。

▶1915

住友肥料製造所が発足し、営業開始



▶1944

ファインケミカル事業に進出



染料や医薬などのファインケミカル事業を展開する日本染料製造を合併

日本染料製造 春日出工場

1945-

総合化学メーカーへの成長

新たな事業を次々とスタートさせ、総合化学メーカーへと成長を遂げてきました。

▶1953

農業化学事業に進出



家庭用殺虫剤「ピナミン」を発売

ピナミン工場(西島)

▶1958

石油化学事業に進出

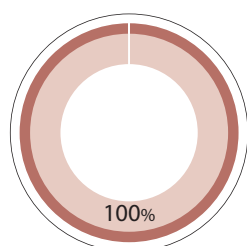


愛媛の大江地区にエチレン工場が完成

エチレン工場(大江)

売上高/売上高構成比

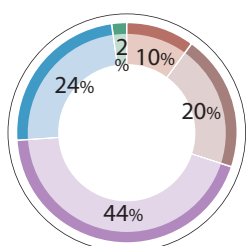
1915年度



12万円(単体)

■ 肥料

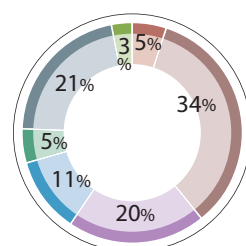
1944年度



1億円(単体)

■ 肥料
■ 工業薬品
■ 軽金属
■ 染料化成品
■ 医薬品

1974年度



4,821億円(単体)

輸出比率 11%

■ 肥料
■ 工業薬品
■ 軽金属
■ 染料化成品
■ 医薬品
■ 合成樹脂
■ 農薬



1975-

全事業を世界へ

世界経済や社会の枠組みの変化に対応するため、すべての事業で積極的なグローバル化を進めました。

2005-

グローバル経営の深化

最適な技術・立地・パートナー・人材を組み合わせることで、競争力のある事業をグローバルに展開するGlobally Integrated Managementという考えのもと、世界中で事業を行っています。

▶1984
シンガポール石油化学コンビナート 操業開始



▶1991
東友半導体薬品(現・東友ファインケム) 設立(韓国)



▶2009
ベトロ・ラービグ 操業開始(サウジアラビア)



▶1988
農薬の開発・販売拠点 ペーラントU.S.A. 設立(米国)



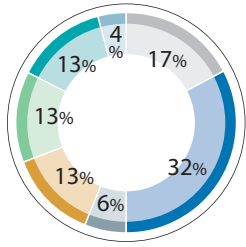
▶1994
住友化学ベルギー(現・住友化学ヨーロッパ) 設立(ベルギー)



▶2009
大日本住友製薬が医薬品会社セプラコール(現・サノビオン) 買収(米国)



2004年度

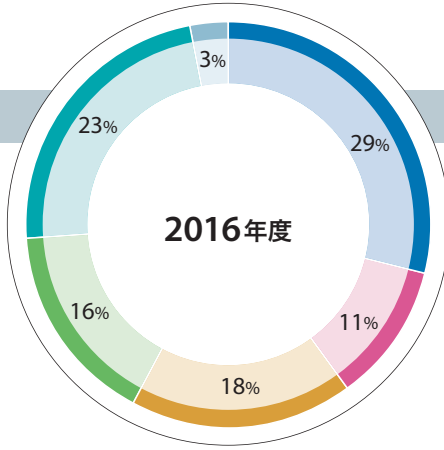


1兆2,963億円

海外売上高比率 **38%**

- 基礎化学
- 石油化学
- 精密化学
- 情報電子化学
- 農業化学
- 医薬品
- その他

2016年度



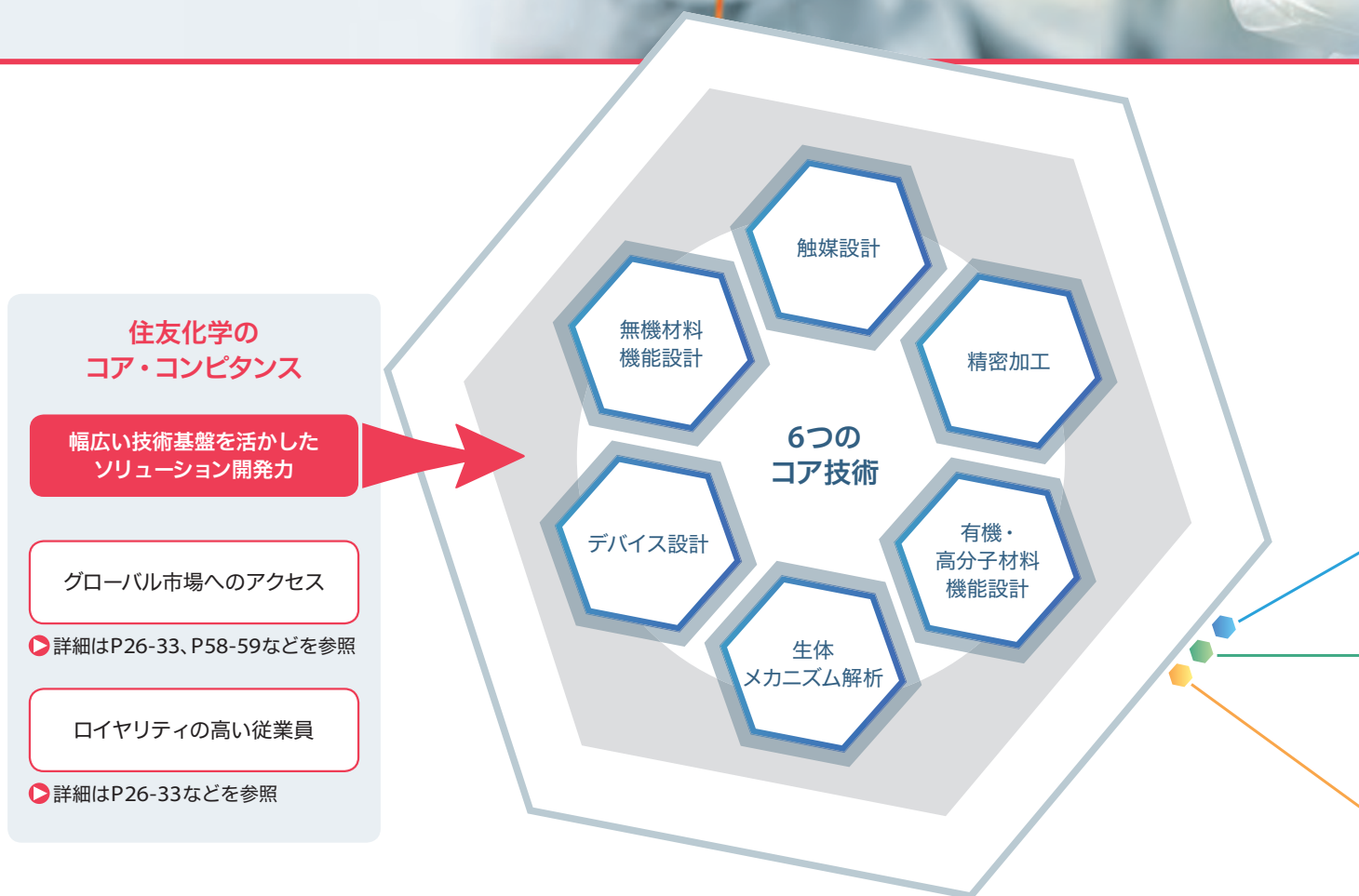
1兆9,543億円

海外売上高比率 **61%**

- 石油化学
- エネルギー・機能材料
- 情報電子化学
- 健康・農業関連事業
- 医薬品
- その他

特長と強み

1世紀をかけて—— 培ったのは価値創造の力



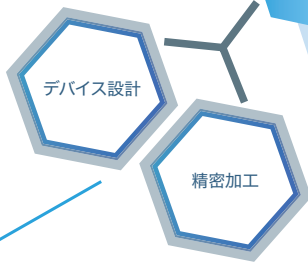
住友化学は、創業以来、「幅広い技術基盤を活かしたソリューション開発力」「グローバル市場へのアクセス」「ロイヤリティの高い従業員」の3つのコア・コンピタンスを培ってきました。その中で、当社の強みである長年蓄積してきた技術を磨くことで6つのコア技術を確立しました。また、当社ではコア技術の組み合わせやオープンイノベーションによる社外技術との融合により、革新的な技術や製品を生み出し、価値を創造する研究開発の基本戦略を、「創造的ハイブリッド・ケミストリー」と呼んでおり、さまざまな成果を生み出しています。このように、当社は化学の持つ創造的な力を最大限に活かし、世の中に価値を提供しています。



創造的ハイブリッド・ケミストリーの事業への活用例

融合

タッチセンサー

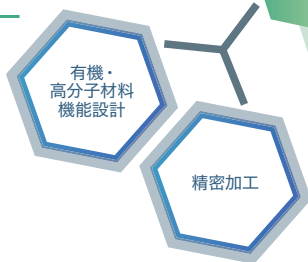


当社のタッチセンサーは、スマートフォン用の有機ELディスプレイに使用されます。顧客ニーズに沿ったデバイスを迅速に設計するとともに、カラーフィルターの生産で培った高精度な精密加工技術を使い生産されるタッチセンサーは、スマートフォンの高機能化や薄型化などに貢献しています。



融合

耐熱セパレータ

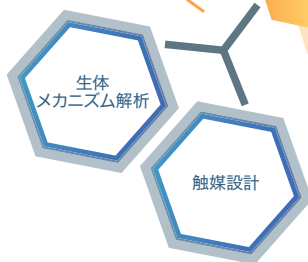


当社の耐熱セパレータは、有機・高分子材料機能設計技術によって生み出されたアラミドを、ポリオレフィンのフィルム上に、独自の精密加工技術を用いて塗工することで生産しています。リチウムイオン二次電池の高容量化に貢献する当社のセパレータは、エコカー向けなどに需要が急拡大しています。



融合

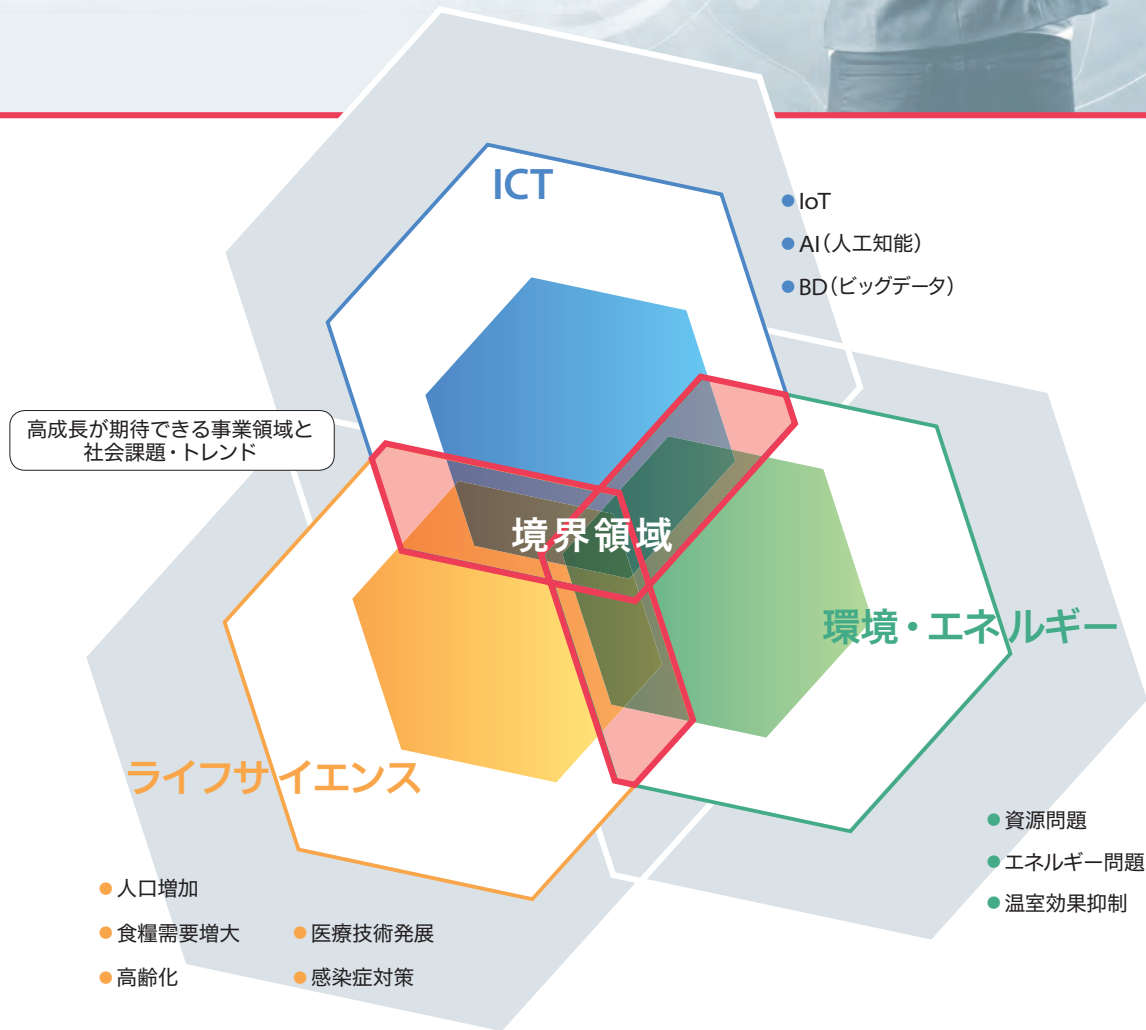
農薬



当社独自の生体メカニズム解析の技術により、農薬開発の要である安全性評価を正確に行い、長年培った触媒設計技術を含む高度な化学合成技術と製剤技術によって高品質な農薬を生産しています。農業の生産性向上に寄与する当社の農薬は食糧増産に貢献しています。



共に未来へ — 社会課題やトレンドは 成長へのチャンス



住友化学は、今後の中長期的な経済および事業環境の予測に基づき、「環境・エネルギー」「ICT」「ライフサイエンス」の3分野を、高成長が期待でき、当社の強みが活かせる事業領域と決めました。また、これら3分野のうち、2分野以上にまたがる境界領域は、総合化学メーカーである当社の強みをより一層発揮できる分野であると考えています。当社は、研究開発をはじめとする経営資源をこの3分野および境界領域に重点配分することで、グローバルな社会課題の解決とQuality of Lifeの向上や豊かでやさしい社会実現に貢献するソリューションを提供していきます。



重点3分野のソリューション

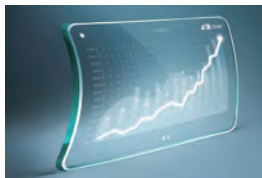
環境・エネルギー



エコカーの成長を下支え

環境・エネルギー分野では、エコカーをはじめとした環境調和製品を下支えするさまざまな高機能材料・部材を提供しています。現在、自動車の環境・燃費性能向上のため、自動車部材の軽量化が求められています。当社は、高成長が期待されるエコカー向けに、リチウムイオン二次電池部材であるセパレータを供給しているほか、正極材を開発中です。革新的な技術を開発することで、環境・エネルギー問題の解決に貢献していきます。

ICT



「曲がるディスプレイ」を現実に

ICT分野では、ディスプレイの性能向上に寄与する高機能部材を提供しています。現在、世の中では「曲げる」「折り畳む」「丸める」といったことが可能な有機ELパネルの開発が進んでいます。当社は、フレキシブルタイプの有機ELパネル用に、ウィンドウフィルム、液晶塗布型偏光フィルム、フレキシブルタッチセンサーなどを開発しています。今後もICT産業を先取りした新たな材料・ソリューションを提供し、人々に快適な暮らしをもたらします。

ライフサイエンス (健康・農業関連事業)



作物の収量拡大や品質向上に貢献する農薬

ライフサイエンス(健康・農業関連事業)分野では、化学農薬やバイオリショナルをグローバルに提供することで、世界的に需要の高まる安全・安心な食糧の安定供給に貢献しています。農作物の品質・収量向上に寄与する製品を農家に届けるとともに、私たちの製品が最大限の効果を発揮するよう支援しています。引き続き、当社の研究開発力を活かし、世界の食糧、健康・衛生、環境問題などの社会課題の解決に貢献していきます。

ライフサイエンス (医薬品)



新たな治療法を人々に

ライフサイエンス(医薬品)分野では、患者のQoL向上に資する医薬品を提供しています。再生医療は2050年に38兆円の巨大市場に成長すると期待されています。当社グループは、iPS細胞などの最先端技術を創薬に応用するとともに、再生医療や細胞医薬に注力し、難治性疾患の治療薬の開発にも挑戦しています。再生・細胞医薬分野の事業化に向けた最先端の医療技術と新たな治療法を活用し、人々のQoL向上に貢献していきます。